

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

April
2020 4

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年4月1日発行(毎月一回発行)第748号

● 出会い・本・人

祈りのともしびを受け継ぐ歩み 浦上 充

● 特集「苦難の神学」を学び直すなら

この三冊！ 本多峰子

● 本・批評と紹介

樋野興夫編著

教会でも、がん哲学外来カフェを始めよう 神保 望

佐竹 明著

現代新約注解全書 第二コリント書 10-13章 広谷和文

大嶋重徳著 クリスマスの約束 豊田信行

松本敏之著 神の壮大な計画 荒瀬牧彦

奥田知志著 いつか笑える日が来る 沢 知恵

石井錦一、木下宣世、関 茂、渡辺正男著

一日一禱 古屋治雄

工藤信夫著 トウルニエを読む！ 坂巻隆男

E・ツェンガー著／佐久間 勤訳

復讐の詩編をどう読むか 飯 謙

山我哲雄著 V T J旧約聖書注解 列王記上 1-11章 勝村弘也

基督教共助会出版部編 恐れるな、小さき群れよ 加藤常昭

既刊案内

書店案内

詩篇の思想と信仰 V

第101篇から
第125篇まで

月本昭男 著

17年の歳月をかけ、全6巻ついに完結！

3月10日

厳密な試訳、詳細な語釈、各詩の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、行き届いた解説を施す。古代オリエント学に通暁する著者にして初めて可能となった周辺世界への広い目配りも併せ、ヤハウエ信仰の詩文学の本質に迫る。◆四六判・本体3900円

誰にも言わないと言ったけれど

ジェイムズ・H・コーン 著／榎本空訳

黒人神学と私

3月25日

黒人神学の先駆者として、現代神学史に後退不可能な一歩を刻み込んだ著者の最後の著作、自らの神学形成の道程を率直に綴った自伝の邦訳ついに刊行。◆四六判・本体3000円

正義と法

キリスト教法倫理の基本線

ヴォルフガング・フリーバー 著／宮田光雄 監修／佐藤司郎、木部尚志、小嶋大造訳

われわれの全生活に影響を及ぼす法。正しい法とは何か、法と倫理、正義と法はどう関係するの。法の神学的基礎を探り、人権を最重要価値として複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じた大著。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導的神学者として活躍した。待望の邦訳。◆A5判・本体9500円

政治神学の想像力

政治的实践としての
典礼のために

ウイリアム・キヤヴァノー 編／東方敬信、田上雅徳 訳

大反響

国家・市民社会・グローバル化を支配する「規律化された想像力」を別掲し、「もう一つの想像力」をキリスト教のストーリーから回復しようとする試み。著者はラディカル・オーソドキシシーの立場で注目されるカトリックの神学者。◆四六判・本体2500円

ヤバいぜ！ 聖書

あなたに贈る 40 のメッセージ

明治学院テキスト作成委員会 編

中学生から大学生までを対象に、旧約聖書と新約聖書から20ずつテキストをとりあげ、現代の問題と関連させて解説、私たちの生き方を考える。関連するコミックや映画も多数紹介。聖書の言葉は突き刺さる！ ◆B5判・本体1000円

斬新な
聖書入門



バイブル



祈りのともしびを受け継ぐ歩み

浦上 充

少し前の事ですが、二〇一七年十一月二三日、長崎の司教座聖堂カトリック浦上教会にて、宗教改革五〇〇年を記念する礼拝が守られました。プロテスタントとカトリックが共に宗教改革を記念する礼拝を守るということ事態が衝撃でしたが、それ以上に、私たちはより積極的に争いから交わりへの道を歩まなければならないという使命を与えられた気がしています。

あの日から瞬く間に三年が経ち、現代では、多発する自然災害や環境問題、自国第一主義やヘイトスピーチなど、息つく間もない程の世界を取りまく現実が私たちの前に横たわっています。個人的には、一人のキリスト者として、これらの一つ一つの事柄に対して、じっくりと本を読み、考えていきたいところですが、そのような時間や心の余裕さえも、情報の嵐の中で削られているような気がしています。

そんな中、『祈りのともしび 二〇〇〇年の信仰者の祈りに学ぶ』平野克己編、日本キリスト教団出版局、二〇一五年、という本に出会い、大きな慰めを与えられました。この本には、ローマのクレメンヌといった初代教会の使徒教父から、ヘンリ・ナウエンや加藤常昭先生など、現代までの教派や時代を越えた三五人の祈りが掲載されています。中には、殉教した方もおられますし、名前しか知らない方もおられました。ここに掲載されている一人一人の祈りは、過去の記録や著作ではなく、彼らがキリスト者として現実の世界に向き合う中で、神に語りかけ、祈りを紡ぎだしてきた信仰者の姿でした。

今、私たちが直面している一つ一つの問題は、簡単には解決できないものばかりですが、それでも共に祈りを合わせながら、これからも歩んで行きたいと願っています。

（うらかみ・みちる 日本基督教団東中野教会牧師、日本基督教団讃美歌委員会委員）



「苦難の神学」を学び直すなら ▼この三冊！

本多峰子（ほんだ・みねこ）二松学舎大学教授、日本基督教団正教師

「苦難の神学」について三冊選ぼうとしてまず考えたのは、ジョン・ボウカーの『苦難の意味——世界の諸宗教における』脇本平也訳（教文館、一九八二）、次に、ステイブ・ン・T・デイヴィス編著『神は悪の問題に答えられるか——神義論をめぐる五つの答え』です。ボウカーの本は、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、マルクス主義、ヒンドゥー教、仏教、二元論（ゾロアスター教、マニ教、ジャイナ教）が、悪の起源や苦難の意味、苦難からの救

済についてどのように考えているかを各宗教の創始者（ユダヤ教の場合は旧約思想）にさかのぼる基本思想とその歴史的发展という形で論述したもので、苦難の問題に対する代表的宗教の取り組みの要点を記した古典的な名著です。これは、苦難について神学的に学ぼうとする人の必読書の一冊だと思いますが、残念ながら現在は古書で入手するか図書館などで読むしかないようです。デイヴィスの本はまだ手に入りますので、三冊のうち一冊にとりあげるとし

て、あと二冊を選ぼうとしたとき、「苦難の神学」と呼べるものの範囲の広さにあらためて思い当たりました。イエス・キリストの十字架の苦難を救済論の中心にすえた神学も、「苦難の神学」と呼べるかもしれません。より直截には、人間の苦難の意味を問う思索は文字通り「苦難の神学」と言えるでしょう。たとえば、C・S・ルイスは『痛みの問題』（中村妙子訳、新教出版社、二〇〇二）で、痛みは私たちに、何かが悪いと気づかせて反省させ、神に立ち帰らせる「神のメガフォン」であると言っていますが、これは苦難の意味の一つの神学的解釈です。けれども、「苦難の神学」と言って、多くの人が思うのはおそらく、「神がいるなら、世界になぜこれほど苦しみがあるのか」という問題への取り組みでしょうか。これは、「これほどの苦難にもかかわらず神を信じていることができるか」とい

う問題でもあり、文学でも主なテーマになっています。ドストエフスキの『カラマゾフの兄弟』でイワンは、神の国の成就が無垢な子どもの苦しみの上に立つのなら、神の国への切符などいらないと宣言していますが、これは、苦難の問題に対する一つの神学的応答です。

このように苦難の問題についての膨大な神学書や文学のなかから私が選んだあとの二冊は、クラウス・フォン・シュトツシユの『神がいるなら、なぜ悪があるのか——現代の神義論』と、ヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』です。

ステイブ・ン・T・デイヴィス編著『神は悪の問題に答えられるか』

この本は、神がいるならこの世になぜこれほどの悪や苦難があるのか、有神論の基本的な三つの命題、①神は全

能である。②神は完全に善である。③悪が存在する、はどう考えれば相矛盾しないのか、という問題に五人の学者がシンポジウム形式で答えようとするものです。それぞれが自分の意見を述べ、他の四人がそれに対する批判を書き、最初の一人の応答がなされます。一人目はジョン・K・ロスで、彼は「抗議の神義論」として、歴史に積み重なる悪はあまりに膨大で、神は決して正当化され得ないと言います。人は、創造主なる神が悪や苦難の存在を許しておくことに抗議しつつ、それでも、神の善性を信じ、神の呼び声に従い、神を賛美し続けるべきだと、彼は言います。第二は、ジョン・ヒックの「エイレナイオス型神義論」で、ギリシア教父エイレナイオスの考えに依って、人間は不完全に造られ、善と悪とを両方とも経験することによって完成に至ると論じています。苦難は人格形成のた

めに不可欠だということです。第三は、S・T・デイヴィスの「自由意志と悪」で、アウグスティヌスの考えに賛同し、神は人間を自由な道徳行為者として作つたが、自由には必然的に悪を行う可能性が伴い、人間はその可能性通り、罪に堕ちてしまったと論じます。四人目のデイヴィッド・R・グリフィンは、「無からの創造・混沌からの創造と、悪の問題」と題して、プロセス神学の神義論を展開します。彼は、創世記の冒頭の正しい訳は、「神が天地を創造され始めたとき、世界は混沌であった」と読み、神は世界を無からではなく、混沌状態の素材を用いて創造したと解釈します。その素材は、神が造ったのではないため、神に抵抗する力をもち、神は善へと説得するが強制的に悪を行わないようにはできないのだと論じます。第五は、D・Z・フィリップスの、「神義論なしの有神論」で、悪や苦難

を何らかの益を生むものとして正当化するようないかなる神義論も否定し、ただ、人生を賜りものとして感謝して受けることを提唱します。これら五つの議論にはそれぞれ批判がなされ、どの考えも究極的には不満足に見えますが、この本では、今日の代表的な神義論の長所と不満足な点を比較概観でき、苦難と悪の問題についてのキリスト教の神学を批判的に学べます。

クラウス・フォン・シュトツシュ著『神がいるなら、なぜ悪があるのか』

シュトツシュは、「神義論とは、全知全能の善なる神を信じている人が、意味の見いだせない苦しみに直面した時、果たしてその信仰は正しいかどうかを議論することです」と述べ、「あらゆる神義論がその第一歩として認めなければならないことは、絶対的に無意味な苦しみが存在すること、言い換

えれば、神が根拠にならない苦しみが存在することです」と、エイレナイオス型の神義論や自由意志論を含めて、苦難を過小評価するあらゆる試みを退けます。その上で彼は神の全能・全知・人間の自由意志の問題など、この世の悪に関して神義論で問題になる要素を吟味し、結局はこの世界を作った神に責任があると言います。そして、憐れみ深く、すべてのものを変える力を持つ神が最後には勝利を収め、すべてのものを変え、新たに創造してくださるとの終末論的希望に神義論の答えを見出します。

シュトツシュは、ユダヤ教やイスラム教など他の宗教での苦難の問題の扱いにも目を配っており、この本は、現在邦訳されている神義論の本の中では、非常にバランスが取れ、広い視野で書かれたものだと思います。

できない」と感じた人たちに、人生のほうはまだ彼らから期待しているものがあると気づかせることで、彼らを絶望から救うことができたと書いています。私たちが人生の意味を問うのではなく、私たち自身が問われたものとし

て体験される。その問いに答えてゆくことで各人の使命を果たしてゆくことこそが人生なのだ、フランクは言います。この言葉は、何もかも奪われ、家族や愛する人々も失い、自分自身の命や人間性まで剥奪されるぎりぎりの

『神は悪の問題に
答えられるか』
神義論をめぐる五つの答え

ステイーブン・T・デイヴィス：著
本多峰子：訳
教文館
2002年刊
四六判440頁
3500円(税別)

『神がいるなら、
なぜ悪があるのか』
現代の神義論

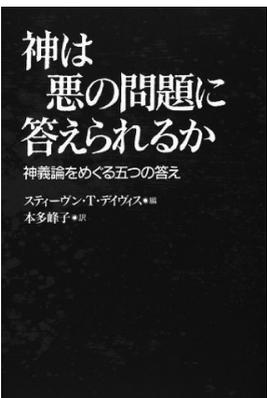
クラウス・フォン・シュトツシュ：著
加納和寛：訳
関西学院大学出版会
2018年刊
A5判269頁
2600円(税別)

『夜と霧』新版

ヴィクトール・E・フランクル：著
池田香代子：訳
みすず書房
2002年刊
四六判184頁
1500円(税別)

ところにおいて人たちの経験に立つて言われているからこそ、重みをもって私たちに語りかけてきます。この本は神学的論考の基礎となる重要な示唆を与えてくれる一冊として、お勧めしたいと思います。

ヴィクトール・E・フランクル著『夜と霧』新版
第二次世界大戦以降、悪の問題についての神学は、アウシュヴィッツの問題抜きには語られません。そのアウシュヴィッツを奇跡的に生き延びた『夜と霧』は、神学書ではありませんが、アウシュヴィッツという悪を自ら体験した著者の、いわば、内部からの報告である点で比類なく重要です。しかも著者は精神科医という職業を持ち、優れた分析によって、アウシュヴィッツの地獄の苦難のなかで人間がどのような心理的变化を被るか、どのように人間性を剥奪されてゆくか、その極限状態において人間はいかにして苦難を乗り越えることができるか、希望や愛がどれほど人間の生きる力になるかを経験から書いています。フランクは、「もはや自分は人生から何ものも期待



「神は御子を通じて既に何を成されたか」を世に示す働き

〈評者〉神保 望



教会でも、
がん哲学外来カフェを始めよう
樋野興夫編著

「二人に一人ががんになる時代」であり、「誰にも雨が降るように、がんも誰もがかりうる病気」である。それゆえ「告知された後、がんをいかに受け入れて、がんと共にいかに生きるか」は多くの人の切実な課題であり、その課題を共に担う働きも求められている。病理学者でありクリスチャンである順天堂大学教授・樋野興夫氏は、この求めに応え、二〇〇八年、がん哲学外来を開設された。

その後、こうした樋野氏の取り組みに共感された方々によって、全国各地に「がん哲学外来カフェ」が次々と生み出されている。現在、二〇〇箇所近くまでカフェが増えていくとの事実は、病を得たことで人知れず不安と恐れの中に苦しんでおられる方々が安心して出会い、それぞれの心の内にある思いを分かち合う「場」が切に求められていることを教えてくれている。

各教会が共有する留意点は、「カフェは伝道や宣教の場所ではなく、悩める患者のための場所である」ことだ。

確かにキリスト者間で何気なく交わされる言葉や習慣化された対応は、「個人的な悩みや不安な思い」を抱えながら初来会された方々を戸惑わせることがあるのも事実だ。しかし、会場が教会である限り、たとえカフェであっても「主キリストの体」であり福音宣教を使命とする信仰共同体の業であることに変わりはない。だから教会をカフェに開放する場合、教会（キリスト者）に与えられた福音宣教の使命を捨てて協力するのかもしれない、そうではないであろう。教会に与えられた使命としての福音宣教は「私たちは何を為すべきか」を考へる前に、「神は御子を通じて既に何を成されたか」を世に示すことだ。そこで本書を通じ

本書は、こうした「がん哲学外来カフェ」を、教会でも開設するよう呼びかけることを目的として編まれたものである。その内容は三部構成であり、第一部は、「がん哲学外来カフェ」を開設・継続する上で大切なことについての樋野氏による解説、および榊原寛牧師によるエッセイ（カフェは善きサマリヤ人の働きだ、と言う）。第二部は、各地域に開設されたカフェのスタッフによる体験記と樋野氏による応答。第三部は、教会でカフェを開設している各人の体験談である。第二部と第三部であわせて三〇名余の生の声を聴くことができる。

樋野氏も触れておられる通り、各カフェの開設までの経緯や開設後の教会内での位置づけは千差万別であり、実に多様性があるが、通底する基本理念は「がん哲学外来カフェの心得」（二八頁）として文書化されている。そして「困っている人と一緒に困ることができるか」と、世が教会に問うているのだと樋野氏は言う。この問いに真摯に向き合う教会が、「多様な可能性」を信じてカフェとしての「場と機会」を提供することを検討し始めるなら、その教会は「悩める患者のための場所」としても存することに

なる。傷ついた人々が安心して出会い、その傷ついた心の思いを分かち合う場——教会がそのように用いられて欲しいと願う全ての人々に、本書は必読の書である。

（じんぼ・のぞみ 日本聖書神学校校長）
（四六判・二四四頁・本体一五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

ヨベルの新刊案内

佐藤全弘〔著〕

好評発売中！



46判・372頁
2,500円
ISBN978-4-907486-98-3



46判・444頁
2,500円
ISBN978-4-907486-99-0

わが心の愛するもの

——藤井武記念講演集Ⅰ

聖名のゆえに軛負う私

——藤井武記念講演集Ⅱ

まっただきを求め、自然を愛し、寂しさにむせび泣く。
熱き血潮に横溢する、藤井武を現代に！
無教会の内村鑑三の高弟にして、激動の時代を預言者の如く
駆け抜けた藤井武。42年の生涯に限りない愛惜と敬慕を込め、
その実像を今に伝える働きをライフワークとしてきた著者・
佐藤全弘の講演集全2巻！

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

第二コリント書10-13章の面白さ

〈評者〉 広谷和文



現代新約注解全書
第二コリント書 10-13章
佐竹 明著

佐竹明先生の『第二コリント10-13章』が出版された。先生による新教出版社の「現代新約注解全書」としては7冊目、パウロ書簡の注解としては、『ピリピ人への手紙』、『ガラテア人への手紙』、『第二コリント書8-9章』に続く四冊目の大著である。これまでこの国にも、数種類の「コリント後書」の注解書が存在していたが、二〇一七年の「8-9章」に続き、世界最高水準の注解書を日本語で読むことが出来るようになったことを心から嬉しく思う。先生のご苦労に深く感謝申し上げたい。

この注解書においてどれだけ綿密な釈義がなされ、丁寧な議論が展開されているかは、わずか四章の注解に（文献表も含めて）六五八頁を要していることからわかる。この大著を読み通すことはたやすいことではないし、その前で怖気づいても恥ずかしくはないだろう。ところが、この

い骨組みとなつて全編を貫いているからなのだろう、と思つた。だから、読者は、先生が膨大な他の注解書と対話するその流れに入つても、本流を見失ふことなく、再び次の展開へと戻ることが出来る。パウロについての理解を深めるためにも、説教の準備のためにも大いに活用したい注解書なのである。

私が特に惹きつけられたのは、パウロがそれを取り去つてくれるよう主に三度折つたという12章7節の「棘」の問題であつた。従来多くの人が関心を持ってきたこの「棘」について、佐竹先生はこの「棘」が病気を指している可能性が大きく（三九三頁）、発作的に現れる可能性も高いとするが（四〇五頁）、それ以上の詮索はせず、むしろ12章1節以下の「見幻体験」と9節の「わたしの恵みはあなたにとり十分だ」という主の言葉を視野に入れながら、宣教者としてのパウロにとつての「棘」の意味を次のように述べる。「棘の痛みは残り続けるが、彼は神からの答えによつ

度最初からページをめくり、細かい注とギリシア語文法の解説も含めて、この本は決して難しい注解書ではないということを知らされた。難しいどころか、パウロの内面世界と宣教者としての使命に関する論述にぐいぐいと引き込まれる面白さがある。この分かりやすさはどこからきているのだろうか。

私は半世紀近く前に佐竹先生の「ガラテア書釈義」の講義を受けた者であるが、そのとき先生が言われた言葉が耳に残っている。それは、「はじめは本文だけを読む。本文と格闘し、自分の解釈が確立するまでは、他の人の注解書は読まない。自分の解釈が確立してから初めて古今の注解書を読んで対話をする」という言葉である。昨年、先生から同じ話を聞かされ、先生の注解書の面白さ、分かりやすさは、先生が本文と格闘され、その中で確立した解釈が太

て棘の持つ積極的な意味に目覚め、棘との共存に踏み切つた」（四〇三頁）。

私たちは、佐竹先生が『ピリピ人への手紙』の注解以来、一貫して語り続けてきた「自力によつてではなく恵みによつて生きる」というパウロ解釈の基調を本書の随所に見出すことが出来るであろう。それは佐竹先生ご自身の生き方であり、信仰でもあると思う。

この国の教会において、いわば「みことば疲れ」とでもいふべき現象が見られるが、聖書本文の中に分け入り、本文と格闘し、そこから溢れ出る力によつて、勇気を与えられる稀有の注解書に出会つた喜びは大きい。先生がご健康に恵まれ、「第二コリント1-7章」の注解書を完成される日の来ることを心から願つてやまない。

（ひろや・かずふみ 日本聖公会旭川聖マルコ教会牧師）
（A5判・六六四頁・本体九七〇〇円＋税・新教出版社）

人生を思い巡らすための黙想集

〈評者〉豊田信行



クリスマスの約束

ルカ福音書による37の黙想
大嶋重徳著

本書は待降節（アドベント）から公現日（エピファニー）までの「黙想集」です。ルカによる福音書を中心にした救い主イエスの誕生にまつわる聖書箇所からのショート・メッセージが綴られています。本書が「待降節」の黙想で終わらず、イエス・キリストが全世界の救い主であることを公に宣言する「公現日」までの黙想集とした著者の思いが、本書の「はじめに」から「おわりに」に至るまで貫かれています。「クリスマス」を救い主の誕生をお祝いするだけで終わらせるのではなく、イエス・キリストこそが救い主であることを全世界に向かっての喜びの知らせとして宣言したい、そんな著者の熱い思いに何度心も動かされます。著者は、ルカが手紙を書き送る際に膨大な資料を「緻密に調べた」ことに共感していることが、本書が黙想集の体裁をとりながらも注解書のような内容になっていることか

らもうかがい知れます。メッセージのひとつひとつには一切の妥協を許さない、福音を正しく伝えたいとの著者の思いが込められています。私にとつての驚きは、慣れ親しんだルカによる福音書であったにもかかわらず、「あっ、そうだったのか!」との新たな気づきが多くあったことです。実は、この書評を書く前に、著者と少しお話をする機会がありました。やはり、思った通りでした。著者自身が本書の執筆にあたって膨大な資料を綿密に調べておられたことを知りました。情熱だけでは福音は伝わらないことを、著書自身が幾多の苦しい経験を通して痛感してこられたからでしょう。

著者は、ルカによる福音書がテオフィロへの献呈の言葉から祭司ザカリヤの身に起こったことへと書き進められたことに着目し、「救い主イエス」の誕生という喜ばしき知

らせを、祭司ザカリヤという人物の葛藤と苦悩を通して伝えようとしたルカの思いを汲み取ろうとしています。祭司ザカリヤは若い頃から父となることを切実に願いましたが、年を重ね、老いていました。御使いガブリエルから父となるのお告げを聞いたとき、「わたしは老人ですし、妻も年をとっています」と心を閉こうとしました。「わたしはもう年寄りですし、ことを荒だてたくない」(三九頁)。著者が宣教の前線に立ち続け、救い主イエスの誕生という「良き知らせ」を宣言し続ける中で、その福音の前に立ちふさがったのが、この「ことを荒だてたくない」という世の心づかいだったのではないのでしょうか。日本は信教の自由が保障されています。しかし、著者は「ことを荒だてたくない」との理由で「良き知らせ」に心開かないザカリヤ、

洗礼を受けることに躊躇するテオフィロに、福音に心を閉ざしている日本人の姿を重ねているかのようです。「しかし神様は、あなたのかつての祈りに応えて、信仰の冒険へと踏み出すようにと招いておられます」(四〇頁)。「一歩、一歩だけでも前に」との著者の魂の叫びが聞こえてきます。ルカが「よく分かっていたきたい」との思いを込めて、テオフィロひとりに書き送った手紙が、やがてルカによる福音書となり、全世界の人々に救い主の誕生を告げ知らせる「福音の声」となっていたように、本書が読む人の心を「救い主イエスの誕生」の喜びで満たすだけでなく、イエスこそが全世界の救い主であるとの良き知らせを響かせることでしよう。すべての人に心から本書をお勧めします。

(とよだ・のぶゆき 〓 ニューライフキリスト教会牧師)

説教黙想アレティア 特別増刊号

伝道する説教をしよう

イエス・キリストを紹介したい!

牧師・信徒の
実用的必読書

教会外の方に福音を伝える説教であり、教会員に伝道への情熱を与える説教である伝道説教をどう語るか。旧約聖書から25箇所を精選して解説。
B5判・128頁・2200円

子どもと関わるすべての方へ

神さまが見守る子どもの成長

誕生・こころ・病・いのち

石丸昌彦

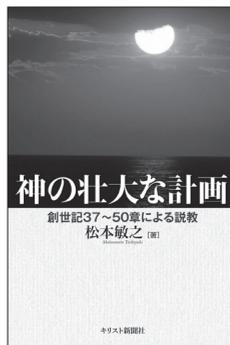


神さまの愛のまなざしを注がれて、ゆつくりと大きく成長する子どもの魂。その豊かさを存分に味わう、クリスマスチャンで精神科医の著者による新しい子育ての道しるべ。
四六判並製・160頁・1760円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》
<http://bp-ucci.jp>

著者の良き賜物が遺憾なく発揮された説教集

〈評者〉 荒瀬牧彦



神の壮大な計画
創世記37〜50章による説教
松本敏之著

病院の待合室のようなところで、ばったり出くわした知人と会話をして過ごさねばならないとしたら？ もしそれが噂話や悪口や暗い話ばかりする人だったら憂鬱ですが、この本の著者のような人と遭遇できたら幸せです。温厚な笑顔で楽しい話を次々聞かせてくれるでしょう。物事や人間のネガティブな側面からも良いものや笑えることを発見し、明るい話題として前向きに語り、聴く人の心を温めるという賜物が彼にはあるのです。某信仰誌の川柳欄の常連であり、また、奉職する教会の機関紙には必ず映画評論欄を設けてしまう程の映画通である著者は、他の人が見過ごすところにも重要なテーマや光るものを見出し、それを信仰や人生のメッセージに昇華して、わかりやすく語ってくれる人です。

説教においても、いや説教においてこそ、著者の良き賜物一つ一つ適切に結び付けていること。例えば、獄中のヨセフが給仕長に「わたしのことを思い出してください」と頼んだ言葉から、「最も小さい者」(マタイ25・40)、また、十字架上の犯罪者の「わたしを思い出してください」(ルカ23・42)が引用されます。予型的な読みを通して、読者は「創世記を通してキリストを知る」ことができます。

第三に、摂理の信仰が、運命論としてでなく、神の計画に応える人間の能動的行為や責任に展開されること。右の留特別許可を求める活動を教会として行った経験が語られ、また、ヨセフの食糧備蓄計画から現代の食糧危機や貧困の問題が語られるなど、ヨセフ物語の中にある人間の苦境や痛みは、現代を生きる我々の課題なのだと教えられます。

物が遺憾なく発揮されています。『神の美しい世界』に始まる創世記説教集を私も愛読してきましたが、ヨセフ物語に取り組む本巻において、豊かな語りの魅力がいよいよ溢れ出ていると感じます。礼拝において生で聴くのが一番でしょうが、読む説教としても、また聖書研究のテキストとしても、旧約聖書から「福音」のメッセージを届けてくれます。

特徴をいくつか述べると、第一は、神の臨在と介入をヨセフ物語の大筋にだけでなく細部においても見出し、それを感動と感謝をもって語っているということ。ヨセフ物語の「摂理」という中心主題を、教条的に押し付けるのではなく、神の深い愛への驚きをもって活写してくれるので、読む側も自分のうちにある神の素晴らしい計画に自然と気づかされるのです。

第二に、ヨセフ物語中の細かいところまで、新約聖書に第四に、著者のエキユメニカルな神学が、聖書の読み込みに反映されていること。例えば、十二部族にエジプト人女性の子であるマナセとエフライムが含まれていることを「聖書の広がり」とし、「異なった人たちが、他宗教の人たちとも共に生きていく」示唆に導かれます。広がりという点では、異邦人は「イスラエルの救いのお相伴に与っているようなもの」といった新鮮な表現も見られます。

この本を読む人は、「神の計画は人間の小さな考えをはるかに超えて壮大なのだ」という喜びに導かれるでしょう。聖書をまだ読んだことのない人にも手渡したい一冊です。(あらせ・まきひこ) 日本聖書神学校教授、カンバールランド長老キリスト教会牧師)

(四六判・一九四頁・本体一四〇〇円＋税・キリスト新聞社)

ヨベルの新刊案内

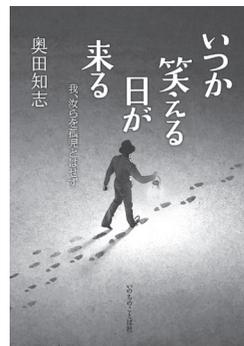
デニス・アレクサンダー 小山清孝訳
創造か進化か 我々は選択せねばならないのか
 A判上製・五〇四頁 進化論は聖書と衝突するか!?
 二八〇〇円 科学と信仰の親密な関係を構築・再考する最良の
 ISBN978-4-909871-1-2 手引き書。キリスト教信仰と相容れないとされてきた「進
 化」が、生物多様化のメカニズムを解説できる優れた理論
 であり、神の創造の業を平和的に共存できることを、ゲノ
 ム学や遺伝子工学の最先端の知識を駆使して
 明快に説き、欧米のキリスト教世界に新風を吹き込んだ好
 著。待望の邦訳! *3月10日発行予定

大頭真一 茨き火を囲んで聴く神の物語・説教篇① 創世記・上
アブラハムと神さまと星空と
 「聖書の物語を手がかりに聖書の学びと説教を
 続けている大頭牧師の『説教篇』を実際の展開
 例として聴かれたままを・読む形で書下された
 シリーズ。聖書の豊かさと真髄を感じ神の愛
 を深く味わえる。【全8冊】
 新書判・三四頁・一〇〇円【第1回配本】
 ヨヘル新書055 ISBN978-4-909871-01-7

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
 出版の手引き / 呈 (税別)

めっちゃ牧師やん!

〔評者〕 沢 知恵



いつか笑える日が来る
我、汝らを孤鬼にはせず
奥田知志著

奥田知志さんは、日本でマスコミへの露出がもつとも多い牧師ではないでしょうか。NHKテレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀」に二度出演したのをはじめ、何かとあの四角い顔を見かけます。かつこいいなあと思うのは、その発信力とことばのセンスです。時代の空気を的確にとらえながら、徹底して弱さをかかえる人の視点に立ち、バツサリ切ることも。奥田さんは、NPO法人抱撲、公益財団法人共生地域創造財団、ホームレス支援全国ネットワークの代表などたくさんさんの肩書をもつ牧師です。

二〇一一年の『もう、ひとりにはさせない——わが父の家にはすみか多し』（いのちのことは社）から九年。続編のようなかたちで出た待望の単著です。

前半は奥田さんが出会った無数の人たちとの物語のほんの一部。東日本大震災のあと、よかれと思って支援した東

度の知的障害をもつ福田さんは、満期出所する度にただ放り出され、福祉制度の支援を受けることなく、刑務所に戻るために放火をくり返したのです。「必ず迎えに行きます」と言われ、子どものように泣いた福田さんは、約束通り奥田さんのもとへ。昨春秋の八八歳の誕生日には、教会のみなさんに《ハッピー・バースデー》で祝ってもらいました。奥田さんってすごいな。なかなかあそこまではできないよ。そんな「よきサマリア人」的な感想で終わってはいけません。なぜなら、私は奥田さんのように、社会の隅に追いやられている人たちに寄り添う活動をしている人をたくさん知っているからです。敬意を表しつつも、奥田さんが特別すごいとは思いません。むしろこれが本質であり、あたりまえではないかとさえ思うのです。いや、なかなか

北の小さな漁村で、「ありがたかったけど、重たかった」と言われ、相互支援の大切さに気づきます。「助けられた人が助ける人になれる」「助けた人が助けられる」仕組みをつくる中で、奥田さんの心に響いたことばが本書のタイトルです。そのコンセプトを自身のホームグラウンドに持ちかえり、ホームレスから立ち上がった人たちによる「生笑一座」を結成。おもに子どもたちに向けて、当事者が自分のことばで語る公演活動をしています。「助けて」と言えた日が、助かった日でした。「自己責任論が渦巻くこの時代に、そうではないよ、と。あなたは私であるよ、と。二二歳で初めて放火をして以来、のべ五十二年間を刑務所で過ごした福田久右衛門さんは、いま奥田さんのそばでやすらかに暮らしています。二〇〇六年の下関駅放火事件のあと、奥田さんは福田さんとかかわりはじめました。軽

できないことですが。

福祉事業家としての奥田さんと先に会おう人は、最後まで読んで驚くことでしょう。めっちゃ牧師やん! 後半は奥田さんの信仰の叫びがづづられています。聖書のことばのひとつひとつが、奥田さんの日々の活動をリアルに支え、導いていることに圧倒されます。そして、どんなのちも引き受けるすべての人に開かれた「軒の教会」の存在にもクリスチャンの私は自分自身の信仰と生活のあり方を問われると同時に、共同体としての教会ができることに思いをはせます。無理はしちやいけなけれど、せいっぱいがんばろう。瀬戸内海の終わりゆくハンセン病療養所の小さな教会で礼拝を守る私は、そんなふうにもうけられました。

(B6判・二八八頁・本体一五〇〇円＋税・いのちのことは社)

新刊

一神教世界の中のユダヤ教

山川裕先生献呈論文集

勝又悦子・柴田大輔・志田雅宏・高井啓介 編

〔市川裕先生献呈論文集〕

一神教世界の中のユダヤ教

勝又悦子 柴田大輔 編
志田雅宏 高井啓介

●A5判上製 本体5,000円＋税

古代メソポタミアの一神教 柴田大輔 / メソポタミアのマクルー儀礼における火と水之力 細田あや子 / 「アバル・ナハラ州の総督」とアール・ヤブドゥ共同体 高井啓介 / 魅力ある女は、名誉を掴む 自分自身に報いる者だ、友愛に富む男は 加藤久美子 / 第二神殿時代におけるガリラヤのリーダーたち 上村静 / 「民」と「自由」と「偶像崇拜」 勝又悦子 / ハイム・イブ・ムーサ『盾と槍』 志田雅宏 / 近代的ユダヤ人ステレオタイプの形成 李美奈 / ほか7篇を収録。 ISBN978-4-86376-078-3

LITHON [リトシ]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

信仰者の人間的成熟と躍動する人生への道案内

〈評者〉 坂巻隆男



トウルニエを読む！
キリスト教の人間理解の新たな視点を求めて
工藤信夫著

本書は、『人格医学』の提唱者として著名なスイスの精神医学者、ポール・トウルニエ（一八九八～一九八六）の代表的著作から重要な洞察を取り上げ、その現代的な使信を著者に紹介する書である。評者は本書を、現代キリスト教の人間理解に対し深いインパクトを与える書物であると確信する。

著者の工藤信夫氏は、精神科の臨床医として長年にわたり、キリスト者の悩みにも耳を傾けてきた。その中で著者は、本来、人間性を豊かにするはずのキリスト教信仰が、かえって人々を不自由にし、『人間疎外』とも呼ぶべき事態を引き起こしている事実直面する。

キリスト教信仰の名のもとに、かえって人々は新たな枠にとらわれ、心が硬直化して、生気に乏しいステレオタイプの信者が多数、生まれる。同時に、教会の門を叩いた大半の人々が教会に失望し、教会を去って行く。

闘の中から紡ぎ出されたものである。同時に、「トウルニエを読む会」における良き仲間との出会いの中で、深められていったものである。また本書の提言は、決してハウツー的なものではない。しかし現代の状況と人々の現実生活を踏まえており、きわめて実務的である。

本書は、以下の基本構成により展開されている。まず著者がトウルニエのテキストの要旨を紹介し、次に印象深い参加者の応答（レポート）を取り上げ、最後に、著者が全体の方向付けとまとめを行い、トウルニエの現代的な使信を浮き彫りにする。そのテーマは、「今日のキリスト者への警告」、「トウルニエによる人生の回復」、「人生の四季——人間の発展と成熟」「結婚の障害——相違の持つ力」など、人生において重要かつ興味深いテーマが並ぶ。

この疎外状況を生むものは一体、何か。これを克服する途はどこにあるのか。本来のキリスト教信仰のありかたは、どのようなものか。長い探究の道のりが始まった。

その道程で、著者は運命的にトウルニエと出会い、またトウルニエの著作を通して、キリスト教信仰の本来的なあり方——生ける《まことの神》と出会い、日常生活の中で神の命が信仰者の中に生き生きと《受肉》し、信仰者へ人間的に成熟させるとともに御心の実現に向けて人生を躍動させるもの——に向けて洞察を深めていく。

しかも、この探究は書齋でなされたものではない。この書で取り上げられたトウルニエの言葉はすべて、著者がその《実存》と《出会い》によって血肉化したものである。

著者の洞察は、精神科医として臨床に携わる一方で、自身の人生行路において幾多の困難と苦難に遭遇し、その苦

また参加者の応答は、実体験に即して述べられ非常に印象深い。一例として、「冒険好きな神という発見」という章で取り上げられている、主婦のレポートの一節を紹介したい。「……このテキスト（『生の冒険』）を読むまでは、……聖書の物語の一つひとつが神の冒険であろうとは、考えたこともなかった。……自分の人生は、神がシナリオを書かれた大冒険なのだと思ったなら、生きる力を失いかけている人ももう一度立ち上がることができないのではないだろうか。聖書を冒険の書として携え、私もまた人生の次なる冒険の一幕を生きて行こうと思う。」（三三頁）

教職、一般信徒を問わず、ぜひ一読をお勧めしたい。

（さかまき・たかお 北信濃聖書の集い・代表、さかまき内科・糖尿
病科クリニック院長）

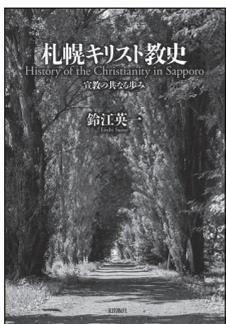
（四六判・二三四頁・本体一五〇〇円＋税・ヨベル）



札幌キリスト教史

宣教の共なる歩み

鈴江英一
Eiichi Suzue



人びとの思想形成と生活に与えた影響の大きさ

札幌における宣教の始めである1875年から戦後2004年までの〈通史〉。宣教のための必読の書。

A5判
定価【本体5,400＋税】円
ISBN978-4-86325-120-5



株式会社 一表出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

積年のわだかまりを 新たな解釈法で読み解く

〈評者〉飯 謙



復讐の詩編をどう読むか
E・ツェンガー著
佐久間 勤訳

著者ツェンガーは一九八〇年代末から世界の詩編研究を牽引してきた聖書学者である。惜しくも一〇年前に七〇歳で天に召された。多数の著作があるが、今回の出版が彼の詩編研究の最初の邦訳である。この書により、日本語を使つて信仰を深めたいと願う人が、詩編への関心をいっそう強めることが期待される。共に喜び合いたい。

旧約の「詩編の書」には一五〇の詩歌が収められている。伝統的に個々の作品を一つずつ取り上げ、そのメッセージのありかを考察してきた。ツェンガーは死海写本を研究する中で詩編の書が成立したプロセスを追求し、この書が古代エルサレム神殿の祭儀とは無関係に、第一編から第一五〇編まで通読するために編纂された読み物、かつ「一冊の文書」として正典に組み込まれたとの仮説を提示した(以下、「一冊の文書」との理解に立つ場合、「旧約詩編」

と表記)。そこで著者は、旧約詩編の諸作品を、個別ではなく、前後関係に留意して読むよう提案した。かつて宗教改革者ルターは「聖書は聖書によって解釈される」と述べ、聖書の信仰を小さな断片からではなく、聖書全体から読みとるよう教えた。さらに彼は詩編の書を「小聖書」と呼んで、この書に聖書の多様な立場が凝縮していることを強調したという。著者が提唱するアプローチ法も、各作品(特に敵の詩編)を前後関係から切り離さず、旧約詩編全体を読むよう勧めている点で、人々が聖書を自ら手に取るようになったルターの時代以降継承されてきた認識に立っていると感ぜられる。

では、本書の主題、敵の詩編はどのように読んだらよいのか。解釈史を顧みると、敵の詩編をユダヤ教に対するキリスト教の優越性に結びつける、あるいは無視、修正する

など、それに正面から向かい合つてこなかった。著者は、この現状を第一章「多面的な問題」と第二章「採用できない解決法」で取り上げる。この中では教会教父から今日に至るカトリック教会における苦闘の紹介や、敵の詩編をユダヤ批判に転用した申し訳ない歴史にも言及して、たいへん勉強になった。第三章「復讐の詩編自体に目を向ける」では、具体的に詩編の各作品において敵対者表象がどのような経緯で作品に書き込まれたかを分析する。詩編五八編を例にとると、元来は穏健な知恵的教訓詩であったものが加筆によって敵を非難する作品に作り替えられる過程を明らかにする。つまり原詩を読んだ後代の読者が、原詩にはなかった敵愾心を膨らませたと解するのだ。第四章「敵に関する詩編・復讐の詩編の解釈」は「復讐」の意味

を吟味し、敵を作り出すわれわれの内的な傾向を語り、その自省的な機能を論じる。第五章「実践のための帰結」では、敵の詩編の代表と思える詩編一三七編に目を向け、一三六編から一三八編へと文脈を読み進むこと、また親近性のある詩編八七編と比較する中で新たな読み方が可能となることを述べ、彼の解釈法のケーススタディを提示する。要望だが、原著者は Psalmen, Psalter, Psalmenbuch、といった類語を使い分けている。本訳書ではカギ括弧を用いて区別するものの、すべて「詩編の書」で一括りにされている。熟慮の結果だとは思いますが、この点はもうひと工夫いただけたらと思う。

(いい・けん) 神戸女学院大学教授・院長
(A5判・二二六頁・本体三六〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

原野百合著 ベツレヘムの星

四六判美装・二八八頁
本体二〇〇円
ISBN 978-4-909871-11-4



♪知らずや今宵、暗き空に♪
あゝ戦後の砂漠の原を、星に導かれて。
この奇烈な戦争の終わりは、さらなる新しい戦いの始まりでもあった。戦争孤児となった和夫少年が一枚のカード「ベツレヘムの星」に導かれるようにたどった数奇な歩みをみずみずしい筆致で書き下ろした児童文学の意欲作。

大頭眞一著 アブラハムと神さまと星王と

大頭眞一
アブラハムと神さまと星王と



「聖書の物語」を手がかりに聖書の学びと説教を続けている大頭牧師の〈説教篇〉を、実際の展開例として聴かれたままを・読む形で書下されたシリーズ。聖書の豊かさ・真髄を感じ、神の愛を深く味わえる。【全8冊】
新書判・二二四頁・一〇〇円 [第一回配本]
ヨベル新書056 ISBN 978-4-909871-07-7

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 星 (税別)

権力への批判的まなざしを 感じる注解

〈評者〉**勝村弘也**



VTJ旧約聖書注解
列王記上1-11章
山我哲雄著

本書は、申命記史書の研究者として著名な山我哲雄氏による列王記上の最初の11章の本格的な注解である。この部分は、サムエル記下から始まる「ダビデ王位継承史」の終結部とソロモンの治世に関する詳細な叙述から構成される。取り上げる聖書の長さは11章であるが、列王記全体の緒論を含めて四百頁以上に及ぶ大著になっている。

注解書の使い方は、人によって違う。評者は聖書本文を読みながら一冊を通読するようなこともあるが、本文中に説明を要する語句が出てきたときに該当箇所の注解を見ることが多い。ところがこの時に肩透かしを食うことがある。難解な箇所は誰にも難解なものであるが、そこを注解書が満足に説明しないうすり抜けることがある。本書にはそれが少ない。通読して退屈しないかどうか別の問題であるが、少なくとも私にはそういう事は起こらなかった。聖書テク

ストから次々に新しい問題が提示されて、それを読み解いて行くという力強さを感じられるからである。

歴史書の注解では、人名や地名の解説が不可欠であり、ソロモン神殿建築の箇所では訳語を含めて学術的な正確さが要求される。神殿の設計図、復元図、ケルブ、青銅の海洗盤などに関する説明は、丁寧になされていて読み飽きない。旧約学では、ヨシユア記から列王記下に及ぶ歴史書の編集者を申命記史家と呼ぶ。M・ノートの古典的学説では、捕囚期の一人の著者が、一定の歴史観をもって長大な著作をまとめ上げたとされてきた（ノート学説では申命記も含まれる）。しかし、その後この歴史家に関して研究者の間で活発な議論が展開されており、編集者として時代の異なる複数の歴史家を想定することが多い。しかし、聖書本文のどの部分を申命記史家の筆とするのか、この歴史家は何

人いるのかなどに関して意見は一致していない。

著者は、緒論において申命記史家に関する近年の論争を整理して提示する。しかし純粋な学術書ではなく、広い読者を意識した本書において、このような議論を注解においてどの程度、どのように反映させるのかは悩ましい問題である。この点について著者は基本的に込み入った議論には深入りしない方法をとっている。これは賢明かつ妥当な方法である。しかし申命記史家の歴史哲学が展開される8章のソロモンの神殿奉獻の際の演説と祈りでは、時代の異なる二人の歴史家を想定して、綿密な考察がなされている。ここに登場する第一の史家はダビデ王朝の存続を前提にする捕囚期前の人物であり、第二の史家の執筆箇所では神殿が存在しない捕囚期の状況が反映されているとする。

著者の権力に対する批判的まなざしは、「解説／考察」における批評によく表現されていて面白い。王位継承史では、ソロモン擁立劇と権力奪取後にソロモンが政敵を粛正する様子が赤裸々に描かれるが、このような独裁者の横暴は、人類史の中で繰り返されてきたきわめて現代的な問題だとする。ソロモンの夢、シエバの女王の訪問、ソロモンの富と栄華に関する考察などは興味深い。考古学からの知見については、「トピック2」のテル・ダンの発掘、「トピック3」のシリア・パレスチナの神殿建築に関する報告で紹介されている。前者は、ダビデそのものの歴史性を否定する「ミニマリスト」に対する一撃となっている。

（かつむら・ひろや 神戸松蔭女子学院大学名誉教授）
（A5判・四五八頁・本体四八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

現代文明への警鐘を鳴らした
押田神父の著作選集



押田成人著作選集 全3巻（第1回記念）
深みとのめぐりあい
高森草庵の誕生 宮本久雄／石井智恵美 編

九死に一生を得てドミニコ修道会に入会するまで、折りりと農業の共同体「高森草庵」における生活をたどる。
A5判上製・252頁・2970円

『信徒の友』人気連載を単行本化



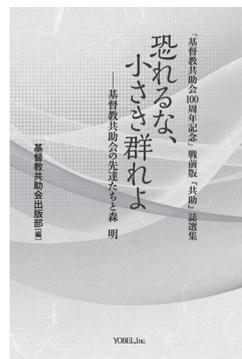
精神障害とキリスト者
そこに働く神の愛 石丸昌彦 監修

精神障害の当事者が抱える課題を、教会はどのように共に担ってきたか。当事者や支援者による証しと、クリスチャン精神科医の応答。
四六判 並製・216頁・2420円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》
<http://bp-ucci.jp>

パーソナルな愛の 同志の輪をどう広げるか

〈評者〉 加藤常昭



恐れるな、小さき群れよ
基督教共助会の先達たちと森明
基督教共助会出版部編

とても面白い書物である。そして私のように面白がって読む人が少しでも増えるといいな、と思う書物である。

昨年、基督教共助会は一〇〇年の歴史を記念し、機関誌「共助」の敗戦前の掲載論文を選んで本誌を刊行した。誌名は、共助会の歴史を支えてきたし、現在の歩みを励ますものとして改めて聴き取っている主イエスのみ言葉である。副題「基督教共助会の先達たちと森明」は、今回の企画の基本的意図・内容を示すものである。

旧日本基督教会中渋谷教会を開拓建設して10年、一九二四年夏、牧師森明三六歳の時、信仰の師父植村正久刊行の週刊誌「福音新報」に「濤声に和して」と題してエッセイを連載した。宿痾の喘息が悪化して湘南海岸で静養していた。翌年には逝去している。従って遺書に擬するひともある。共助会が発足して五年を経ていた。褥りつつ

迎える夜にも波の音「濤声」が聞こえる。昼に散策し、「人生悠久の波打ち際に立って」波の音を聴く。その波音に心身を委ねつつ冥想する。そこから生まれた、一字一句を刻むように書かれた文章である。学術論文ではないが、明らかに近づく死を予感する森の存在を注ぎ出すように神学と信仰を語り出している。劇詩「靈魂の曲」も書いた文才は、ここでも光っている。森牧師が短い生涯を通じて生き、また問い続けたものが何であったかがよくわかる名文である。これだけで一読に値する。

これに「共助」寄稿の諸文章が続く。盟友高倉徳太郎、石原謙が森の文章を論じ、その上で、当時若者であった人びとの文章十篇が紹介される。共通の主題は森明との出会いである。これが第一部である。後に中渋谷教会の牧師になった山本茂夫が九州を出て東大法学部に入學し、森牧

師を訪ねて求道生活を始めたが、心鬱して礼拝にも行かず、蟄居していた四谷の下宿に森牧師が突然訪ねてくる。若い牧師が、悩む山本青年に言う。「人生は寂しいね!」。そこから対話が始まる。やがて山本は森牧師の信仰の同志となる。そうかと思えば、「書齋の先生」と題する浅野順一は、病のために学校でほとんど学ぶことができなかった森明が、見事に外国語文献も学ぶようになり、どのように学問を身につけていったかを興味深く物語る。

小さいが内容豊かなこの書物が願うのは、自分たちの原点の確認であり、そこへの回帰である。共助会は、もともと旧帝大を中心とする学生伝道を志した集団であった。今は、その面影はない。本書が伝えるのは指導者森牧師と若者たちとの極めてパーソナルな出会いである。植村牧師と

の出会いを通じて体得したキリストの贖罪愛は、燃えるようなキリストへの愛の応答を生み、主にあるキリスト者相互の友愛となる。森牧師を中核に置く燃えるような同志愛は、内村鑑三を中核とする無教会集団を思い起こさせる。現在の共助会にも、このキリスト愛とキリスト者相互の友情とは生きている。それだけに自己満足に陥らないで新たに燃え立たせることができるかが問われている。現代においても、森に似た燃えるような、パーソナルな愛の同志の輪を広げることができるか、緊急の課題としてほしい。悩む青年を訪ねて歩いた牧師のこころを新しく生きてほしい。共助会のもうひとつの課題、現代文化との対話、対決の問題を論じ得なかつたことをお詫びする。

(かとう・つねあき＝神学者)

(四六判・二八八頁・本体一三〇〇円＋税・ヨベル)



改訂版 キリスト者への問い

あなたは天皇をだれと言うか

松谷好明

Yoshiaki Matsutani



いま、キリスト者として
考えなければならないこと

信仰告白的に生きるとは
どういうことかを真摯に問う。
キリスト者として
日本人として生きる上での
重要な指針を
与えてくれるであろう。

四六判変型

定価【本体 1,700 + 税】円
ISBN978-4-86325-117-5



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten_0530@afso.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1701F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://webkyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環郡読字嶺777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2019年12月~2020年1月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
佐竹 明	現代新約注解全書 第二コリント書10-13章	A 5	664	9,700	新教出版社	11/30
在日本韓国YMCA編	未完の独立宣言 —2・8朝鮮独立宣言から100年	四六	280	2,500	〃	12/23
石井錦一、木下宣世 関茂、渡辺正男	一日一禱 —毎日の聖書と祈り	四六	120	1,200	日本キリスト 教団出版局	12/1
樋野 興 夫	教会でも、がん哲学外 来カフェを始めよう	四六	144	1,500	〃	12/10
金子 晴 勇	アウグスティヌス『神の国』を読む —その構想と神学	A 5	320	2,400	教 文 館	12/30
松本 敏 之	神の壮大な計画 —創世記37~50章による説教	四六	194	1,400	キリスト新聞社	12/13
ジュセッペ 三木 一著 佐藤 弥生 訳 松島雄一 監修	アベルのところで命を祝う —創世記を味わう第4章 師父たちの食卓で2	A 5	192	1,500	ヨ ベ ル	12/15
基督教共助会出版部	恐れるな、小さき群れよ —基督教共助会の先達たちと森明	四六	288	1,300	〃	12/25
大 頭 眞 一	焚火を囲んで聞く 神の物語・説教編 アブラハムと神さまと 星空と—創世記・上	新書	224	1,100	〃	12/25
大井 満 責任編集	2019ケズイック・ コンペション説教 聖なるたたずまい	四六	176	1,300	〃	12/25
鈴 江 英 一	札幌キリスト教史 —宣教の友なる歩み	A 5	400	5,400	一 麦 出 版 社	12/21
W. キャヴァーノー著 東方敬信、田上雅徳訳	政治神学の想像力 —政治的実践としての 典礼のために	四六	200	2,500	新 教 出 版 社	1/24
宮 本 久 雄、 石 井 智 恵 美 編	押田成人著作選集1 深みとのめぐりあい —高森草庵の誕生	A 5	252	2,700	日本キリスト 教団出版局	1/25
石丸昌彦 監修	精神障害とキリスト者 —そこに働く神の愛	四六	216	2,200	〃	1/25
M. ティリー、 W. ツヴィッゲル著 山 我 哲 雄 訳	古代イスラエル宗教史 —先史時代からユダヤ 教・キリスト教の成立まで	A 5	336	4,200	教 文 館	1/30
濱 和 弘	人生のすべての 物語を新しく —シェルターの神 学から傘の神学へ	四六	232	2,300	〃	1/30
H.W. ホーランド著 池 永 倫 明 訳	コンパクト聖書注解 コリント人への第一の手紙II	四六	196	2,800	〃	1/30

福音と世界

2020年4月号

特集 《家族》をほどこ

寄稿者 寺尾紗穂、渋谷望、
松崎実穂、金在原 神谷悠介

新連載 「Say a Little Prayer 開かれる世界

（栗田隆子）、「いまを生きるみことば（金退野）

／書評 「それはあなたが望んだことですか」

（斉藤綾子）／報告 日本・在日・韓国女性

神学フォーラム（編集部）／好評連載 くま

さんのシネマめぐり（好井裕明）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

ま何年も過ぎてしまっている。

本箱自体決して大きくはないのだが、部屋が狭いのでかなりの場所を占領している。以前は書籍タイトルが一目瞭然になるよう収納していた本も、いつの頃からか縦に横に背表紙を一切無視した、詰め込み優先状態に変わり果ててしまった。正直、見た目が汚くて煩雑。

今持っている本は、厳選に厳選を重ねて残したいと思っただものと最近読んだもの、そしてこれから読もうと思っ

予告

本のひろば

2020年5月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）「宝探し」田中健三、（書評）基督教共助会編『森 明著作集（第二版）』、大井満責任編集『聖なるたたずまい』、袴田康裕著『教会の一致と聖さ』、濱 和弘著『人生のすべての物語を新しく』、金子晴勇著『アウグスティヌス「神の国」を読む』、原 野百合著『ベツレヘムの星』他

いるもの。どうすればよいのか。本箱はこれ以上増やせない。そこで、もう一度聖書を見る。六冊とも訳は違っても書いてあることはほぼ同じ。ただの普通の信徒がそんなにたくさん必要なのかと一冊ずつ吟味を始めた。豪華な装丁の革装と三方金、和英対訳などは頂いたときの情景や、それぞれにうれしかった気持ちをよく覚えている。

最後の一冊、経緯がおぼろなペーパーバックを手にとった。安価な作りなので処分しても思っで一応、葉が挟まれてるページを開く。赤線の箇所が目にとまった。

「悪に負けることなく、むしろ、善をもって悪に勝ちなさい。」（ローマ12・21／共同訳）

思い出される高校生の日々。聖書を本棚へ。部屋は元どおりに戻った。（吉崎）

2020年4月より、NHK「こころの時代」で「コヘレトの言葉」の講師を務める著者が書き下ろす、渾身のコヘレト書注解

VTJ 旧約聖書注解 **コヘレト書**



小友 聡 東京神学大学教授
日本基督教団中村町教会牧師

コヘレト書は、黙示思想へのアンチテーゼである——これまでにない斬新な読み方を示す、挑戦的な一冊

「すべては空しい」という言葉から、厭世的・虚無的な文書だと思われがちのコヘレト書。しかしコヘレトが述べたかったのは「ほんの束の間である生を生き抜け」ということであった。黙示思想との関連性に着目した解釈により、コヘレト書に新たな輝きを与える。

2020年3月25日刊行予定

◆A5判 上製・210頁・3,520円

好評
発売中

コヘレトの言葉を読もう
——「生きよ」と呼びかける書
小友 聡 四六判・136頁・1,540円

テレビ
番組情報

2020年4月～9月 第3日曜午前5時～6時放送
NHK Eテレ「こころの時代」 講師：小友 聡
それでも生きよ～旧約聖書「コヘレトの言葉」

優れた注解シリーズICC『ローマ書』簡約改訂版、待望の邦訳！

注解 **ローマの信徒への手紙**

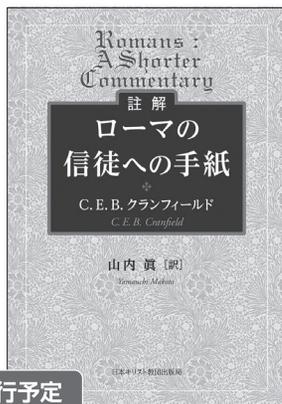
C. E. B. クランフィールド 英国の神学者・
新約聖書学者・牧師
山内 眞 [訳] 東京神学大学名誉教授

オーソドックスな『ローマ書』注解の名著

定評ある英国の注解書「International Critical Commentary (ICC)」シリーズ『ローマ書』の簡約改訂版。コンパクトにまとめられた原著を、著者クランフィールド自身がさらに考察を深め、最晩年まで改訂し続けた最新の内容を反映させた決定版の邦訳。説教者必携の書。

◆A5判 上製・546頁・11,000円

2020年3月24日刊行予定



見出された命

聖句断想6

小島誠志 著



撮影：山名敏郎

1頁の中に、聖句とその解説を収め、簡潔・的確に聖書の教えのエッセンスを伝える183の断想。「神は失われた一匹の羊を捜し出します。失われた一枚の銀貨を見つけるまで捜します。悔い改めとは、人が神を見出すことではありません。神に見つけていただいた自分を知ることです」

● 小B6判・200頁・本体1,800円

好評既刊

朝の道しるべ

聖句断想366

小島誠志 著



「聖句断想」シリーズから厳選した366の珠玉の言葉。ハンデいで贈り物にも最適。

● A6判文庫判・400頁・本体1,500円

抵抗権と人権の思想史

欧米型と天皇型の攻防

森島豊 著



なぜ日本に人権思想は根付かないのか？ 欧米と日本の人権理解の相違点はどこにあるのか？ 日本国憲法第九十七条に謳われる「基本的人権」のルーツと受容の歴史を辿り、日本人が「人権思想」を理解できない問題点を浮き彫りにする。

● A5判・448頁・本体3,000円

好評既刊

人権思想とキリスト教

日本の教会の使命と課題

森島豊 著



キリスト教の立場から「人権」の根幹を問います。「第11回涙賞」最優秀賞受賞論文を加筆・増補

● 四六判・162頁・本体1,500円

3月の新刊 (価格表示は税抜)



あなたはわたしの愛する子

あなたはわたしの愛する子

心にひびく聖書の言葉

片柳弘史 著

プログで発信されたバイブル・エッセイから、選りすぐりの40篇！

人生の道に迷い、苦しみ、ぼろぼろに傷つきながら、救いを求めて聖書を開くわたしたちにも、神さまは同じ言葉をかけてくださいます。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」。この言葉こそ、聖書全編の要約ではないかとさえわたしは思っています。――本文より

● B6変型判・180頁・本体1,000円

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二〇年四月一日発行 毎月一回(一日発行)
本のひろば 第七四八号 二〇二〇年四月号

発行所 〒163-8614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3360-1652 振替001-17051-1679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 佛平河工業社
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3360-1677

定価七八円(税抜七一円) 63円
一年分二三〇〇円(送料共)

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) | 呈・図書目録 |

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！

